平成 22 年8月6日

各　　位

会 社 名　株式会社 EMCOM ホールディングス
代表者名　代表取締役社長　竹内 秀人
（JASDAQ・コード 7954）
問合せ先　取締役経営企画本部長 三井 規彰
電話　050-5537-8000

特別利益、特別損失の発生及び業績予想の修正に関するお知らせ

当社は、平成22年12月期第2四半期累計期間（平成22年1月1日～平成22年6月30日）において以下の特別利益及び特別損失が発生する見込みとなりましたのでお知らせするとともに、最近の業績動向を踏まえ、平成22年2月15日に公表した業績予想を下記の通り修正いたします。

記

1．特別利益及び特別損失の発生及びその内容

当社は当第2四半期会計期間において、連結にて特別利益 123 百万円、特別損失 170 百万円、並びに個別にて特別利益 14 百万円、特別損失 46 百万円を計上いたします。

当第2四半期会計期間において計上することとなった特別利益及び特別損失の主な内容は以下のとおりです。

(1) 当第2四半期会計期間における主な特別利益の内訳と合計

勘定科目	平成 22 年 12 月期第2四半期会計期間	
	連　結	個　別
①前期損益修正益	99 百万円	－
②その他	24 百万円	14 百万円
合　計	123 百万円	14 百万円

① 前期損益修正益

当社の連結子会社である株式会社 EMCOM CAPITAL(平成 22 年7月 20 日付にて株式会社 EMCOM 証券より商号変更)において、過年度分の消費税の還付が生じたことにより、連結にて 99 百万円を前期損益修正益として計上いたします。

② その他

役員退職慰労引当金並びに貸倒引当金の戻入等により、連結にて 24 百万円、個別にて 14 百万円を特別利益に計上するものです。

(2) 当第2四半期会計期間における主な特別損失の内訳と合計

勘定科目	平成 22 年 12 月期第2四半期会計期間	
	連　結	個　別
①投資有価証券評価損	87 百万円	－
②本社移転費用	44 百万円	14 百万円
③その他	39 百万円	32 百万円
合　　計	170 百万円	46 百万円

① 投資有価証券評価損

当社の連結子会社である英極軟件開発（大連）有限公司[1]が保有する「その他有価証券」に区分される投資有価証券のうち、今後の見通し及び財務状況等を精査した結果、帳簿価額に比べ実質価額が著しく下落したものについて、減損処理による投資有価証券評価損として、連結にて 87 百万円を計上いたします。なお、同社の当期純利益は連結においては少数株主損益の科目で相殺処理されるため、連結業績における当期純利益への影響はございません。

当第2四半期における投資有価証券評価損

	連　結	個　別
(A)平成22年12月期第2四半期（平成22年4月1日から平成22年6月30日まで）の有価証券評価損の総額（＝イ－ロ）	87百万円	－
（イ）平成22年12月期第2四半期累計期間（平成22年1月1日から平成22年6月30日まで）の有価証券評価損の総額	87百万円	－
（ロ）直前四半期（平成22年12月期第1四半期）累計期間（平成22年1月1日から平成22年3月31日まで）の有価証券評価損の総額	－	－

（参考）※当社は有価証券の減損処理に際し、洗替法を適用しております。
※当社の決算期（事業年度の末日）は12月31日であります。

○純資産額・経常利益額・当期利益額に対する割合

	連　結	個　別
(B)平成21年12月期末の純資産額	3,462百万円	－
（A/B×100）	2.5%	－
（イ/B×100）	2.5%	－
(C)平成21年12月期の経常利益額	1,481百万円	－
（A/C×100）	5.8%	－
（イ/C×100）	5.8%	－
(D)平成21年12月期の当期純利益額	134百万円	－
（A/D×100）	64.9%	－
（イ/D×100）	64.9%	－

② 本社移転費用

本社移転に伴う原状回復費用及び移転工事費用として、連結にて44百万円、個別にて14百万円を計上いた

します。

③ その他

本社移転に伴い発生した固定資産除却損及び支払利息割引料における過年度修正損の発生等により、連結において 39 百万円を計上するとともに、個別において 32 百万円を特別損失に計上するものです。

2. 業績予想の修正

(1) 平成 22 年 12 月期 連結業績予想の修正

①当第2四半期累計期間（平成22年1月1日～平成22年6月30日）

	売上高	営業利益	経常利益	当四半期純利益	1株当たり四半期純利益
前回発表予想（A）	百万円 5,527	百万円 1,874	百万円 1,647	百万円 1,328	4円83銭
今回発表予想（B）	4,483	1,757	1,719	1,351	4円92銭
増減額(B)－(A)	△1,044	△116	72	22	―
増減率(%)	△18.9%	△6.2%	4.4%	1.7%	―
(ご参考)前期実績 (平成21年12月期第2四半期)	3,830	795	762	526	2円8銭

②通期（平成22年1月1日～平成22年12月31日）

	売上高	営業利益	経常利益	当期純利益	1株当たり当期純利益
前回発表予想（A）	百万円 9,227	百万円 2,575	百万円 1,922	百万円 983	3円57銭
今回発表予想（B）	6,580	2,170	2,150	1,370	4円97銭
増減額(B)－(A)	△2,647	△405	228	387	―
増減率(%)	△28.6%	△15.7%	11.8%	39.3%	―
(ご参考)前期実績 (平成21年12月期)	7,343	2,149	1,481	134	0円53銭

(2) 平成 22 年 12 月期 個別業績予想の修正

①当第2四半期累計期間（平成22年1月1日～平成22年6月30日）

	売上高	営業利益	経常利益	当四半期純利益	1株当たり四半期純利益
前回発表予想（A）	百万円 190	百万円 △132	百万円 △448	百万円 468	1円70銭
今回発表予想（B）	109	△207	△288	280	1円2銭
増減額(B)－(A)	△80	△75	159	△188	―
増減率(%)	△42.2%	―	―	△40.1%	―

(ご参考)前期実績 (平成21年12月期第2四半期)	43	△269	△313	△317	△1円25銭

②通期（平成22年1月1日～平成22年12月31日）

	売上高	営業利益	経常利益	当期純利益	1株当たり 当期純利益
前回発表予想（A）	百万円 346	百万円 △273	百万円 △904	百万円 60	0円22銭
今回発表予想（B）	260	△350	△350	290	1円6銭
増減額(B)－(A)	△86	△77	554	230	―
増減率(%)	△24.8%	―	―	383.3%	―
(ご参考)前期実績 (平成21年12月期)	45	△611	△1,199	△1,366	△5円39銭

(3)修正理由

① 連結業績予想数値について

<<当第2四半期連結累計期間>>

金融事業全般において、同業他社との競争が激化したことに加え、相場環境が停滞し収益機会に恵まれなかったことから、売上高は期初予想を下回り4,483百万円に留まる見通しとなりました。

一方、営業利益においては、平成22年8月より施行となる外国為替証拠金取引事業におけるいわゆるレバレッジ規制への対応として、販売管理費圧縮等のコスト削減を前倒しで進めたことにより、営業利益は1,757百万円と期初予想は下回るものの一定額を確保いたしました。

また、経常利益は、平成22年3月17日付「(経過報告)返済に関する合意書締結並びに借入金の一部返済に関するお知らせ」にて公表のとおり、債権者との間で返済に関する合意書を締結し、“当社が本合意書に違反しない限り、当社の返済義務は元本である3,963百万円に限定され、債権者は既発生を含む利息・損害金等、元本以外は請求できない”とする内容を適用したことにより、期初に通期に渡って保守的に織り込んでいた支払利息割引料672百万円のうち、当第2四半期連結累計期間における支払利息割引料の計上は101百万円に留まったことから、当第2四半期連結累計期間の経常利益は1,719百万円、当期純利益は1,351百万円と期初予想を上回る見通しです。

<<通期>>

通期業績における売上高、営業利益は、連結子会社である株式会社EMCOM証券(現:株式会社EMCOM CAPITAL)の外国為替証拠金取引事業及び有価証券関連事業の譲渡により、これまで内部取引として連結相殺されていた当該事業に係るレベニューシェア型ASPによるシステム利用料収入の約470百万円が平成22年12月期第3四半期より連結売上高に計上される一方、期初に第3四半期以降の当該事業に係る売上高として見込んでいた約1,680百万円は当該事業譲渡に伴い減少となりますので、売上高、営業利益ともに期初予想を下回る見通しです。

一方、経常利益及び当期純利益においては、平成22年7月27日付「(経過報告)借入金の全額返済及び債務免除に伴う特別利益の発生に関するお知らせ」にて公表のとおり、借入金の全額返済に伴い、平成22年3月17日付にて債権者との間で締結した合意書に記載の“既発生を含む利息・損害金等、元本以外は請求できない”とする内容が適用されますので、期初に保守的に織り込んでいた支払利息割引料672百万円が発生しないことに加え、第3四半期において過年度の未払利息333百万円を債務免除益として特別利益に計上すること等から、通期業績は期初予想を上回る見通しです。

なお、第3四半期において特別利益に計上する債務免除益について、本日付にて「(修正)「(経過報告)借入

金の全額返済及び債務免除に伴う特別利益の発生に関するお知らせ」の一部修正について」を開示しておりますのでご参照ください。

② 個別業績予想数値について

<<当第2四半期累計期間>>

連結売上高の減少に伴い、売上高を基準として算出される関係会社からの経営指導料等の収入が減少したことから、個別売上高が109百万円、営業損失が207百万円と期初予想を下回りましたが、連結業績同様、借入金に係る支払利息の発生が大幅に減少したことから、経常損失は288百万円に留まり、期初予想を上回る結果となりました。しかしながら、各子会社の業績の変動により、連結納税に係る個別の税金費用が増加する見込みであることから、当期純利益は期初予想を下回り280百万円となる見通しです。

<<通期>>

第3四半期以降の連結売上高の減少に伴い、売上高を基準として算出される関係会社からの経営指導料等の収入が減少することから、個別業績の売上高及び営業利益は期初予想を下回る見通しです。経常利益及び当期純利益につきましては、連結業績同様、支払利息割引料が減少すること並びに債務免除益による特別利益の発生が見込まれることから、いずれも期初予想を大幅に上回る見通しです。

(注)業績予想につきましては、いずれも本資料の発表日において入手可能な情報に基づくものであり、今後の不確定な要因により実際の業績が予想値と異なる場合があります。

以 上

[1] 当社との直接の資本関係はございませんが、緊密な者及び同意している者を含む出資比率は 100%となります。